

音源距離測定装置(音カメラ KYORImo(キヨリモ))

音源までの距離も (KYORImo) 見えるから、 騒音問題、異常音探査に 役立ちます

背景・目的

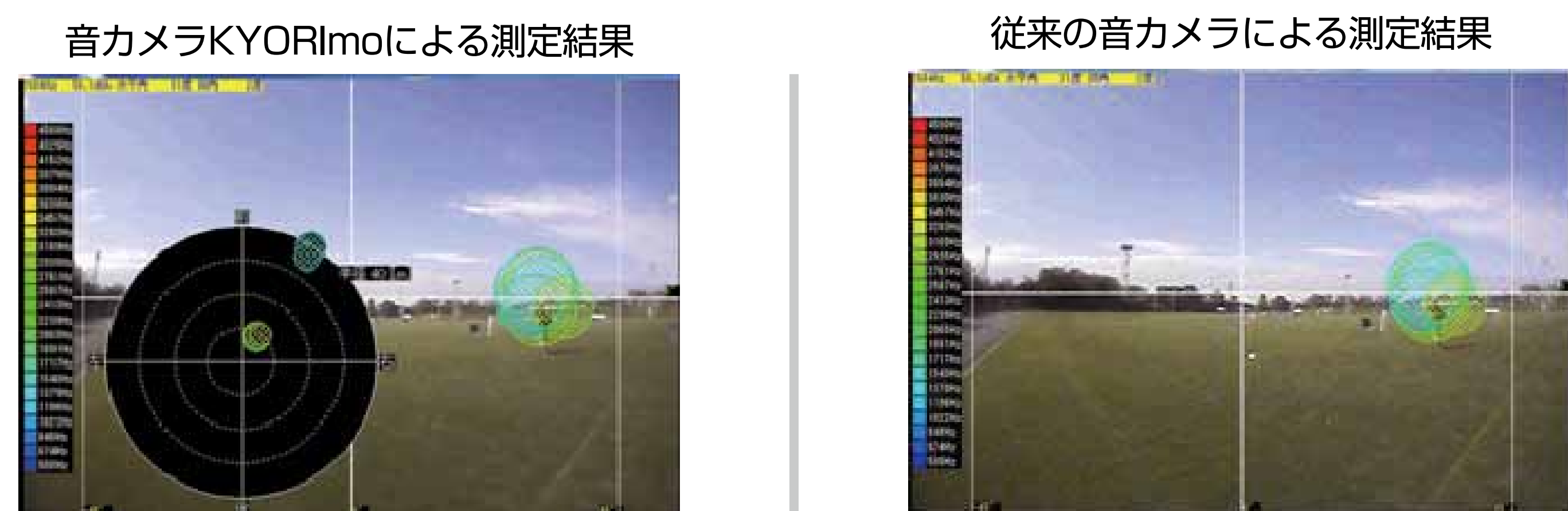
- 従来音カメラは、2つ以上の音の発生方向が同じ場合、測定結果表示が画面上に重なることから音源を特定するためには、複数箇所での測定を必要としました。しかし、河川、山間部および電力設備(充電部)付近等では、測定場所の移動が困難であったため、音源までの距離を「見える化」する装置を開発しました。

特長

- 従来音カメラのマイクロフォン群(5本)2組を用い、三角測量の原理で測定を行います。
- 測定点から音源までの水平投影距離をリアルタイムで表示します。
- 測定対象により、低周波域用および可聴域用のマイクロフォン群を使い分けることができます。
- 装置から半径約80mまでの音源距離を測定できます。

用途

- 敷地境界における騒音測定。
- 工場内などの機器の常時監視。
- 鳴き声(音)による生物の生息域調査。



測定結果の説明
同一方向から周波数の異なる音が発生している場合、従来の音カメラによる測定では、右図のように表示が重なり、前後どちらの音源対象物が、どの周波数の音が発生しているかが把握できませんでした。
本装置では、測定点から音源までの水平投影距離を表示可能なため前方(約10m)から高い周波数の音が発生し、後方(約40m)から低い周波数の音が発生している事が容易に把握できます。

測定結果画面

